

一般社団法人 日本医療福祉建築協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館  
 TEL:03-3453-9904 FAX:03-3453-7573 http://www.jiha.jp

## 医療福祉建築フォーラム 2015 開催案内

本協会では毎年、医療福祉建築に関する研究・計画・設計者と他分野の方々が、ともに学び、考える場として、医療福祉建築フォーラムを2日にわたり開催しています。

本年度も最新的话题を中心に、講演・対談・シンポジウムを織り交ぜたプログラムを企画しました。初日はビッグデータ、感染症などの話題のほか、マギーズセンターやチャイルド・ケモ・ハウスという話題の建築もテーマにしています。東日本大震災からちょうど4年半を迎える二日目には、看取りや地域包括ケアのほか、被災地における住まいとまちの復興についてのシンポジウム等を企画しています。

皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

### 記

- 会 期 2015年9月10日(木)・11日(金)  
 会 場 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)  
 主 催 一般社団法人 日本医療福祉建築協会  
 定 員 140名 (定員になり次第しめきります)  
 参加費 一般: 37,800円 JIHA 会員・会友: 21,600円(税込)  
 申し込み 1) 参加申込書にご記入の上、FAXまたはE-mailにて下記宛お申し込みください。(webでもお申し込みできます)  
 2) 申込み順に、参加費を記載した受付票を返信致します。  
 3) 受付票が届き次第、参加費をご確認の上、指定口座にお振り込み下さい。  
 4) 入金を確認され次第、領収書と参加証をお送りします。



※申込み後、3営業日を過ぎても受付票が届かない場合は、事務局までお問合せください。

日本医療福祉建築協会事務局 〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20 建築会館  
 TEL: (03) 3453-9904 FAX: (03) 3453-7573 E-MAIL: office@jiha.sakura.ne.jp

## “医療福祉建築フォーラム参加申込書

日付: 2015年 月 日

一般・JIHa 会員・JIHa 会友 (○を付して下さい)

法人名			
所在地	〒		
担当者		部 署	
T E L		F A X	

参加者名	参加者名

日本医療福祉建築協会 行 FAX (03) 3453-7573

## 医療福祉建築フォーラム 2015 プログラム

第1日 9月10日(木) 9:00 開場

9:30-9:35	会長あいさつ 上野 淳 (一般社団法人 日本医療福祉建築協会 会長)
9:35-10:35	講演：医療ビッグデータの活用による医療の変化 市川 衛 (NHK 放送センター 科学環境番組部)
10:45-11:45	講演：地域に向かう病院 鈴木 邦彦 (日本医師会常任理事/医療法人博仁会 志村大宮病院 理事長・院長)
11:45-12:45	昼食休憩
12:45-14:15	ワークショップ：迫りくる感染症への対策 宮川 昭二 (厚生労働省健康局結核感染症課 感染症情報管理室長) 司会・コーディネーター：笈 淳夫 (工学院大学 建築学部 教授)
14:30-15:30	講演：日本におけるマギーズセンターの誕生に向けて (英国・香港そして東京) 秋山 正子 (Maggie's Project Tokyo 共同代表・白十字訪問看護ステーション所長)
15:35-16:35	対談：事業者と設計者の協働・チャイルド・ケモ・ハウス ナビゲーター：竹宮 健司 (首都大学東京 都市環境学部 教授) 楠木 重範 (チャイルド・ケモ・ハウス クリニック院長) 手塚 貴晴 (手塚建築研究所)

第2日 9月11日(金) 9:00 開場

9:30-10:30	講演：ホスピレート 働きやすい病院評価について 瀧野 敏子 (NPO 法人イージェイネット代表理事)
10:40-11:40	講演：介護施設における看取りと環境 (介護保険制度改正と今後の方向性を踏まえて) 小川 利久 (エイジング・サポート実践研究会 代表)
11:40-12:40	昼食休憩
12:40-13:40	講演：地域包括ケアの実際とこれから 猪熊 律子 (読売新聞東京本社 編集局社会保障部 部長)
13:50-16:30	シンポジウム：住まいとまちの復興と地域包括ケア 池田 昌弘 (特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター 理事長) 長 純一 (石巻市立病院開成仮診療所 所長) 佃 悠 (東北大学大学院工学研究科 助教) 山崎 和彦 (社会福祉法人杜の里福祉会 理事長)  主旨説明・概説「被災地の今」：石井 敏 (東北工業大学 工学部 教授) 司会/コーディネーター：三浦 研 (大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授)

(公社) 日本医業経営コンサルタント協会「医業経営コンサルタント」継続研修：11.0時間 (予定)  
建築CPD (継続能力/職能開発) 情報提供制度認定プログラム (予定)

\* 講師敬称略、テーマ・講師は変更されることがあります。

## 医療福祉建築賞 2015 募集要項

主催 一般社団法人日本医療福祉建築協会  
後援 厚生労働省

一般社団法人日本医療福祉建築協会では、平成3年に厚生省の後援を得て「病院建築賞」を創設し、平成7年より名称を「医療福祉建築賞」と改めて、医療福祉建築の顕彰事業を実施しております。

賞は、近年竣工した医療・福祉施設及び保健施設のうち、応募のあったものの中から選ぶことになります。下記の要項に沿って、ふるってご応募くださるようご案内致します。

### 1. 趣 旨

医療福祉建築賞は優れた医療福祉建築を顕彰し、それを広く世に知らせることによって、これら施設の質の向上をはかることを目的として定めるものである。

優れた医療福祉建築とは、建築として質が高いことに加えて、利用者ならびに職員にとって快適で使い勝手がよいことを条件とする。すなわち中身と器が調和し、いづれにおいても優れていることを意味するものとする。

### 2. 顕 彰

「医療福祉建築賞」若干点に対して、賞状・賞牌・銘板が贈られる。また、企画、特定の部門計画、工事技術などが特に優れている応募案があった際には、選考委員会でその内容を検討し若干点に対して「医療福祉建築賞準賞」として、賞状・賞牌が贈られる。

### 3. 対 象

顕彰の対象となる施設は、顕彰の対象となる施設は、平成23年(2011年)4月1日から平成26年(2014年)3月31日までの3年間に日本国内において新築、増改築または改修を行なった医療・福祉・保健施設ならびにその関連施設とする。

なお、上記条件に合致する限りにおいて、前回に応募し選外となった作品の応募もさしつかえない。

### 4. 応募資格

応募者は、当該施設の開設者または管理者、設計者のどちらでもよい。ただし、選考委員または委員の所属する組織が計画・設計・運営に関与している施設は応募できない(当該施設は委員の任期終了後に応募することができる)。

### 5. 選考のための提出資料

- (1) 所定の応募申込書ならびに建築概要書
- (2) 設計主旨
- (3) 図面 配置図・平面図・断面図など、大きさはA3判。
- (4) 写真 15葉程度とし、周辺環境がわかるものを含むこと。また、室内については家具・機器等が設置され

ていること。大きさは任意。

以上の(1)～(4)をA3判クリアファイル1冊におさめて提出のこと。なお、それらをPDF化しCD等に収めたデータを同時に提出のこと。ただし、本会誌『医療福祉建築』に作品全体が紹介されたものについては、(2)～(4)の一部について当該誌の提出をもってこれに替えることができる。この場合でも『医療福祉建築』に掲載分も含めてデータを提出のこと。

### 6. 応募期日

平成27年8月17日から同年8月31日まで。当日消印有効。

### 7. 提出先

一般社団法人 日本医療福祉建築協会  
住所 〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館  
電話 03-3453-9904 FAX 03-3453-7573

### 8. 応募料

応募者は1作品につき64,800円(税込)を応募料として応募時に納入する。

### 9. 選 考

選考は、以下の委員で構成される選考委員会によって「趣旨」に沿った判断にもとづいて行なう。なお、選考過程で必要に応じて現地調査を行なう。また、必要に応じて特別委員をおくことができる。

委員長 山下 哲郎 (工学院大学 建築学部 教授)  
委員 池田 俊也 (国際医療福祉大学 薬学部 教授)  
委員 石井 敏 (東北工業大学 建築学科 教授)  
委員 鶴田 恵子 (日本看護管理学会 理事長)  
委員 松村 正人 (大成建設(株) 建築設計第五部 部長)  
委員 鷺見 圭司 (足利赤十字病院 事務部長)  
委員 渡部 和生 (㈱惟建築計画 代表取締役)

### 10. 公 表

選考の結果は平成28年3月末日までに応募者に通知するとともに、別途本会誌に公表する。

### 11. 提出資料の取扱い

応募のために提出した資料は返却する。また、本協会がこの事業の趣旨に則して提出資料を会誌に掲載、さらに図書の出版、または展示などのために用いる場合、受賞者は無償でその使用を認めることとする。なお、その際写真撮影者の記載を必要とする場合は、あらかじめ応募の際に明記する。

応募書類はwebでダウンロードできます。 <http://www.jiha.jp>

※本賞に関するお問合せはメールにてお受けします。 E-mail:office@jiha.sakura.ne.jp

## 医療福祉建築賞 募集要項の改定について

2015年度募集要項より、顕彰の対象の期間について改定を行います。

これまで、顕彰の対象は、定められた期間（2年間）に日本国内において新築、増改築または改修を行なった医療・福祉・保健施設ならびにその関連施設としておりました。

対象の範囲を広げることで応募の機会を増やすことを目的に、その期間を今年度より3年間に改定いたします。

## 海外医療福祉建築研修2015

2015年度のJIHaツアーは、ブラジルとカナダの病院を視察します。

ブラジルでは昨年亡くなった João Filgueiras Lima (通称 Lelé) の設計した病院を中心に視察します。Lelé は日本ではあまり知られていませんが、ブラジルではニーマイヤーに比肩する RC を得意とする建築家で、病院を中心とした様々な公共施設を手がけました。同じ RC でもニーマイヤーが自由な造形を志向したのに対して、Lelé は規格化されたフェロセメントを用い、乾式工法で軽く美しい造形を生み出してきました。特筆すべきは、構造体のみならず家具までもひとつの工場で作ることによって、病院の空間をシステム化したことです。70年代から2000年代にかけて建てられた彼の病院の成長と変化を見ながら、システム化の効能と是非を考えたいと思います。意外と知られていないニーマイヤーの設計した病院2か所も見学します。また、ブラジルでの宿泊はニーマイヤーが設計したホテル Brasília Palace Hotel を予定しています。

帰路ではカナダに入国して PPP 病院の視察を行います。日本や英国では大規模 PPP プロジェクトは一段落していますが、カナダでは 10 万 m<sup>2</sup> クラスの案件が現在も進行中です。日本と比較的医療保険制度が似ているカナダの事例と比較しながら、日本の PPP 病院の将来像を探ります。

視察訪問先、日程等の詳細はパンフレット (<http://www.jiha.jp/news/shisatsu2015.pdf>) にてご確認ください。

### 記

- 旅行期間： 2015年10月31日(土)～11月11日(水) 8泊12日
- 訪問国： ブラジル(サンパウロ・ブラジリア・リオデジャネイロ)、カナダ(トロント)
- コーディネーター： 岡本 和彦 (JIHa 国際委員・東洋大学理工学部建築学科 准教授)
- 参加費用： 20名以上の場合 612,000円  
15～19名の場合 700,000円
- 予定人数： 15～24名
- スケジュール： 1～7日目 東京→サンパウロ→ブラジリア→リオデジャネイロ  
8～10日目 リオデジャネイロ→トロント  
11日目 トロント→東京
- 参加申込方法： パンフレットの参加申込書にご記入の上、協会宛に FAX、E-メール、または郵送にてお送りください。なお、有効なパスポートをお持ちの方はパスポートのコピーも一緒にお送りください。
- 参加申込締切： 2015年8月24日(月) ただし、定員になり次第締め切ります。  
※研修参加希望でありながら勤務先の決裁等の都合で申し込みが遅れる方は、事務局までご連絡ください。
- 参加資格： 日本医療福祉建築協会・日本医療福祉設備協会の会員、会友及びその紹介者に限る。

(公社) 日本医業経営コンサルタント協会「医業経営コンサルタント」継続研修(予定)

建築CPD(継続能力/職能開発)情報提供制度認定プログラム(予定)

## 海外医療福祉建築研修 2015 日程表

日数	月日	都市名	現地時間	交通機関	摘要	食事・宿泊		
						朝	昼	夕
1	10/31 (土)	羽田発 トロント着 トロント発	夕刻 夕刻 夜	航空機	羽田空港ご集合 空路、乗継便にてサンパウロへ	×	×	機
2	11/1 (日)	サンパウロ着		専用バス	サンパウロ建築視察	機	×	○
3	11/2 (月)	サンパウロ着		専用バス	Hospital Edmundo Vasconcelos 視察 サンパウロ建築視察	○	×	×
4	11/3 (火)	サンパウロ発 ブラジリア着		航空機 専用バス	空路、直行便にてブラジリアへ Hospital Regional de Taguatinga 視察	○	×	×
5	11/4 (水)	ブラジリア		専用バス	Hospital Sarah Lago Norte 視察 Hospital Sarah Brasilia 視察	○	×	×
6	11/5 (木)	ブラジリア発 リオデジャネイロ着	午前 夜	専用バス 航空機	ブラジリア建築視察 空路、直行便にてリオデジャネイロへ	○	×	×
7	11/6 (金)	リオデジャネイロ		専用バス	Centro Internacional Sarah de Neuroreabilitação e Neurociências 視察 Hospital da Lagoa 視察	○	×	×
8	11/7 (土)	リオデジャネイロ発	午前 夜	専用バス 航空機	リオ、ニテロイ建築視察 空路、直行便にてトロントへ	○	×	機
9	11/8 (日)	トロント着	午前 午後	専用バス	専用バスにて市内へ トロント建築視察 トロント大学	機	×	×
10	11/9 (月)	トロント		専用バス	Bridgepoint Hospital 視察 Humber River Hospital 視察	○	×	○
11	11/10 (火)	トロント発		航空機	空路、直行便にて羽田へ	○	×	機
12	11/11 (水)	羽田着			到着通関後、解散	機	×	×

## ＜予定視察先＞

## 【サンパウロ】

## ・Hospital Edmundo Vasconcelos (旧Hospital Gastroclinicas)

ニーマイヤーの作品集にほとんど掲載されていない、サンパウロの私立急性期病院。元は消化器単科の病院だが、1969年に総合病院となり、現在は医師780名、年間手術件数1万2千件を誇る。近年、他の建築家によって増築と改修が進められている。

(1949年竣工、設計：オスカー・ニーマイヤー)

## 【ブラジリア】

## ・Hospital Regional de Taguatinga

連邦保健局とニーマイヤーのガイドラインに沿ってつくられた、小児や外科を中心とした病院。コンテナを積んだようなシステムチックな造形は、成長と変化へのフレキシビリティの考え方から生み出された。(1968年竣工、設計：Lelé)

## ・Hospital Sarah Lago Norte

ブラジリアに2か所あるSarah病院は神経科とリハビリを対象としているが、Sarah Lago Norteは先進リハビリを行う外来と研究に特化している。湖に面した立地を使用して、外部空間を内部に取り込みながら都市では実現できなかった公園的環境を実現している。(2003年竣工、設計：Lelé)

**・Hospital Sarah Brasília**

建設当時のブラジルの社会経済情勢に対応したシンプルさを追求した結果、ジェンガを積んだような簡潔な形態となった。神経科、整形外科、外科、脳外科、老年科など幅広いリハビリを受け持ち、必要に応じてSarah Lago Norteと患者をやりとりしている。後にLelé自身による増築が行われた。(1980年竣工、設計：Lelé)

**[リオ・デ・ジャネイロ]****・Centro Internacional Sarah de Neuroreabilitação e Neurociências**

先天的、後天的を問わず、神経損傷の患者を受け入れている。外来のみで、入院や救急は扱わない。Leléが最後に設計した病院建築。(2009年竣工、設計：Lelé)

**・Hospital da Lagoa (旧Hospital Sul América)**

リオの湖に面した側はスカイブルーに、山に面した側は穴あきレンガの茶色でまとめられた、もとは産院単科の病院。V字の柱脚はその後世界中で流行した。中庭はRoberto Burle Marxの設計。1992年に州の文化遺産に登録された。(1952年竣工、設計：オスカー・ニーマイヤー)

**[トロント]****・Bridgepoint Hospital**

幾多の賞を獲得した契約期間30年、6.22億カナダドルのAFP/PPPプロジェクト。472床で68万平方フィートの新築に加え、19世紀に建てられた監獄を管理棟にコンバージョンしている点も興味深い。(2013年竣工、設計：HDR+Diamond and Schmitt Architects)

**・Humber River Hospital**

完成前からBridgepointに比肩するとの呼び声が高いAFP/PPPプロジェクト。完成前だがすでに4つの賞を獲得している。656床、180万平方フィート、北米初のフルデジタル病院になる予定。(2015年竣工予定、設計：HDR)